

学校の石綿 総点検

堺市教委 市民の調査で4校目わかり

堺市教委は十日、市内の全小、中学校と幼稚園を対象に、珪酸化合物として問題化している石綿(アスベスト)の校舎などへの使用状況をつかむため総点検に乗り出す方針を決めた。市教委は今春の調査で、三つの小、中学校で石綿使用校舎の存在を確認、応急措置をしたが、これとは別の小学校でも石綿が使われていることを独自に調べた市民が突き止め、さらに広がる可能性が出てきたためだ。

石綿が大阪大工学部研究棟などで使われていた、この報道を受け、堺市教委は今春、石綿が最も多用された四十年代に建設した小、中学校約五十校を対象に調査した。この結果、一つの小学校と二つの中学校の廊下の天井などに使われているのを確認。石綿が空气中に飛散しないよう石こうボードで封じ込める対策をとった。

ところが、市内の新金岡団地一帯で「ニコミ紙を発行している藤森千弘さん(五十一)堺市深阪二四七」が、このほど地域の小、中学校五校で独自調査したところ、市立新金岡小学校(河盛勇三校長、八百七人)でも、二棟の北校舎のうちの二棟(三階建て)で、一三階の階段の天井と、他の校舎との渡り廊下の天井に、それぞれ幅約三メートル、長さ

三メートルにわたって石綿含有の防火、防音材が使われているのを見つけた。

藤森さんの依頼を受け、石綿関連疾患に詳しい横山邦彦・国立療養所近畿中央病院(堺市)理学診療科医長らが分析した結果、石綿の含有率

は一〇―二〇%に及んでいることがわかった。

渡り廊下の天井などには、児童たちがボールをぶつけた跡が残っており、石綿の一部はすでに飛散している可能性もある。学校側は「ボールをぶつけたり、傘などをつい



石綿使用が確認された堺市立新金岡小の渡り廊下の天井(はん点のように見えるのがボールを投げつけた跡)

たりしないように」と児童に注意している。

学校は四十一年秋の閉校で、問題の校舎は四十八年六月に増設した。労働省が国内の建設現場での石綿の吹き付け作業を禁止した五十年前だったため、業者が使用したらしい。

市教委は専門機関に石綿含有の再鑑定を依頼するが、来週にも建築、衛生などの各部署と共に特別チームを編成、横山医長の指導で、全校園の総点検と新たな対策に着手する。